

# その2 | 3本柱で立ち向かう

被害を減らすためには、野生動物が暮らしにくい集落をつくる「生息環境管理」、動物の生態を考慮した「被害防除」、そして生息頭数を減らす「個体数調整」を同時に進めていく「総合的対策」が重要です。そして、長期的かつ高い効果を得るためには、地域ぐるみで対策に取り組むことが大切です。

## まずは、相手を知ることから。

生態や習性を知るとは、対策を立てる上で大切なことです。覚えておきたいのは、シカもイノシシも「学習する動物」だということです。(背景の図形は、実物と同じ大きさの足跡の形です。)



**【シカ】 体長: 1～1.7㍓**  
▷好物: 草食性。植物はほぼ何でも食べる。  
▷活動時間: 昼夜を問わない。  
▷運動能力: 1.5㍓程度の柵は軽く跳び越える高い跳躍力を持つ。ただし、飛び越えるよりも下をくぐろうとする習性がある。  
▷繁殖力: 毎年1頭を出産。



**【イノシシ】 体長: 1～1.7㍓**  
▷好物: 草食に近い雑食性。芋やタケノコ、昆虫の幼虫やミミズなど。  
▷活動時間: 昼夜を問わない。  
▷運動能力: 助走無しで1㍓以上の柵を跳び越える。20㍓の隙間をくぐり抜ける。70㍓以上の石を動かす力を持つ。  
▷繁殖力: 毎年4～5頭を出産。

## (1) 生息環境管理

### ①「餌づけ」しない

野生動物にとって、集落には2種類の食べ物があります。ひとつは、人間の栽培し、収穫する前の農作物である「食べたら人が怒るエサ」。そしてもうひとつは、放置された果樹や生ごみ、雑草などの「食べても誰も怒らないエサ」です。後者の場合、人間にとっては不要物でも野生動物にとってはおいしいエサなので、これらが無防備な状態で存在していれば野生動物を「餌づけ」していることになりかねません。

動物が狩猟用のわなに入りやすくするためにも、取り残しの野菜や果樹、生ごみなどは放置せず、動物が近づけないところで処分することが重要です。また収穫予定のない果樹(放任果樹)は伐採するか囲ってしまうことも効果的です。

### ②「潜み場」をなくす

耕作放棄地や空き家、草むらなどは野生動物にとっての潜み場となります。地域で協力して、見通しがよく隠れることができない状態にすることが大切です。また、けもの道を見つけたら踏み荒らしてつぶしてしまいましょう。



▶売り物にならずに廃棄されたミカン。その気はなくても野生動物を餌づけしていることに。

- 周りにありませんか？
- 「餌づけ」ポイント
- 野菜や果樹のくず
- お墓の供え物
- 秋に草刈りをして生えた冬草
- 堆肥化する前の畑の生ゴミ
- 放置竹林のタケノコ

## (2) 被害防除

### ① 守れる農園づくりを

侵入形跡が見られたら、緊急的に囲いを設置します。これは「今までと違う状態」をつくり出すことで動物を不安にさせるためです。ただしロープなどでは数日から2週間程度で効果がなくなるため、それまでに柵やネットの準備をします。

柵やネットの設置に際しては、シカ・イノシシとも感電するのは鼻だけなので電柵は20・40・60センチの高さにする、シカ対策のネットは1・8メートル以上の高さにするなど、生態に適していることが効果を増大させます。

周囲をきっちり囲っていても、葉や実が外にはみ出している、もしくは外側から引き寄せられることができる状態では、「餌づけ」をしていることと同じです。柵より1メートル以内には作物を植えない、柵のすぐ内側に植える場合は動物が好まない作物(トウガラシ、シソなど)を選ぶといった工夫で、柵を壊されにくくなります。

### ② 人慣れさせない

身の安全が確保されているならば、大きな音を立てたり物を投げたりして追い払いましょう。「人間は怖い」と覚えさせる取り組みが、集落に近づけさせないことにつながります。

柵やネットでの防御に失敗すると・・・

「柵やネットの近くには  
おいしいエサがある」

と学習されてしまい、

逆に動物を引き寄せてしまうことに。



▶ せっかく電柵を設置しても、葉がはみ出してしまっている。

## 被害防除のための補助金があります

町では、町内の農地や山林、養殖場への防除設備の設置経費の一部を補助しています。昨年度は46件、今年度は10月末現在で53件の申請がありました。被害状況に適した防除設備の選び方などの相談にも応じますので、お気軽に問い合わせください。

◆補助対象経費:電柵やネットなどの防除設備設置にかかる材料費

◆補助率:対象経費の2分の1

(※同一年度での補助限度額は、1世帯あたり10万円まで。)

【問】産業課・林業室 ☎(56)2226

## 事例 「補助金を活用し、充実の収穫を実現」

澤井 富男さん(徳山)

昨年、畑の農作物がことごとくイノシシに食べられてしまったため、今年は補助金を活用して電柵を設置しました。

近くに電源がなく、ソーラーパネル式の機器を導入しました。比較的高価なので、町で補助していただきたき大変助かりました。

設置にあたっては、周辺で特に小柄なイノシシを見かけることがあったので、電柵の高さの間隔を通常より狭くするなど工夫をしました。

おかげで今年度は被害もなく、植えたサツマイモは無事に収穫することができました。達成感を感じるとともに、適切な対策の必要性を実感しています。

